

令和 5 年度 学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	45	学校名	茨城県立波崎柳川高等学校						課程	全日制		学校長名	人見 茂			
教頭名	篠原 理								事務(室)長名	杉山 哲朗						
教職員数	教諭	17	養護教諭	1	常勤講師	3	非常勤講師	1	実習教諭, 実習講師, 実習助手	1	事務職員	3	技術職員等	4	計	33
生徒数	小学科	1年		2年		3年		4年		合計		合計 クラス数				
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女					
	普通科	25	30	27	15	47	26			99	71	7				

2 目指す学校像

一人一人の自己実現に対応した教育を実践する学校 (夢を実現させる・取り組みを結実させる・地域とともに歩む)

3 三つの方針(スクール・ポリシー)

「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	(長期的目標) ○自己実現にむけて意欲的に学校生活を送り、主体性や社会性を身につけた人財。 ○個性や多様性を相互に認め合うことができる、心豊かな人財。 ○学校で培った資質や能力を生かして地域社会に貢献できる人財。
「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	(中期的目標) ○主体的で対話的な授業の展開により対話力・発信力の向上を図る。 ○生徒の学習ニーズへの対応と進路希望実現のための学習活動の展開。 ○学校が地域や社会と連携・協働しながら生徒の成長を支え、地域に貢献できる生徒の育成を図る。
「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	(短期的目標) ○学校や社会の一員としての自覚を持ち、規範を守ろうとする生徒。 ○自分の進路を切り拓くために挑戦できる生徒。 ○部活動や校内外の諸活動に仲間と協同して積極的に取り組む生徒。

別紙様式 1 (高)

4 現状分析と課題 (数量的な分析を含む。)

項目	現状分析	課題
進路指導	昨年度末の進路結果は、進学 49%、就職 49%、未定 2%であった。一昨年度は進学 44%、就職 53%、未定 3%であり、進学者が増加し就職者が減少した。また未定者はやや減少した。進路決定に対する意識の向上が見られた結果であると思われる。一方で、本校の生徒は、学習習慣が定着しておらず、学習状況リサーチでは3年生の多くの生徒が「全く学習しない」という状況で、学年が上がるに従い、学習時間が減少する傾向にある。反面、「成績を伸ばしたい」「学習の方法がわからず悩む」と回答する生徒が約半数いる。他にも「進路について悩む」生徒が各学年3割程度いることもわかっている。これらを踏まえ、各学年において組織的な対応が求められる。	学習習慣の定着と学力の向上については、能動的に仕掛ける必要があり、指導体制に生徒・保護者・職員が期待できるように(特に各教科で)働きかける必要がある。特にICTの効果的な活用によって職員の負担を増やさずに学習活動の活性化を図ることが重要である。授業改善としてはClassiやiPadの利用などを推し進めつつも、知識定着のために振り返りなどの地道な指導にも力を入れていきたい。また、「生徒の実態に合ったプログラム」を最適に行いながらも、学力向上と進路実現を達成させる必要がある。学年と各校務分掌が連携し、生徒一人一人に「自己存在感」「有能感」「達成感」が得られる体制づくりが急務である。
生徒指導	R4年度の事故報告件数は40件、交通事故が16件であり、R3年度より増加している。特にSNSに関連する件数、交通関連(無断免許取得やバイク運転等)が増加傾向にある。対教師や友人間でのトラブルも報告されている。登下校時の自転車通学者による接触事故等も前年度より増加しており、交通マナー・交通安全指導は継続指導が必要である。また、大半の生徒は落ち着いた学校生活を送れているが、規範意識の低い生徒もいるため、基本的な生活習慣の指導も継続し、引き続き時間厳守の徹底、服装頭髪指導が必要である。	基本的な生活習慣の確立を目指し、遅刻・欠席を減らすこと、正しい服装での登下校や学校生活を送ること、登下校時における交通事故防止を含めた交通ルールを順守することは継続指導が必要である。また、学校外で問題行動等が発生していることから、校外巡視を強化するとともに地域・保護者・学校が連携し組織的な生徒指導の充実・徹底を図り、事故の未然防止に努める必要がある。また、意図的・計画的な指導により、自発的に健康・安全管理、規範意識の向上に取り組むことのできる人間力を育てる。
特別活動	R4年度の部活動加入状況は、前年度から0.5%上がって51.6%となった。特に女子の加入者率は49.5%と例年より大幅に上昇し、部活動に積極的に参加している生徒が増えている。また、コロナ禍の影響で実施できていなかった文化祭を、生徒会役員と実行委員会が中心となって実施することができた。さらに、前年度にも参加した地域のラジオ放送の番組作成を本校体育館で公開収録として行い、生徒会役員だけでなく参加希望者や、部活動に参加している生徒を加え、学校全体で行事に取り組むことができています。	部活動に加入する生徒は増えている反面、学校全体の生徒と教員は減少している。そのため、積極的な外部指導者の利用や現状活動している部活動を再編成していかなければならない。また、学校行事やボランティア、部活動に関してもより校内外に情報を発信し、地域との連携をさらに発展させる方策の検討も必要である。さらに現状、常任委員会の中でも委員会活動を定期的に行っている委員会は少ない。そのため、委員会活動を積極的に取り組む時間を作り、その中で生徒一人一人に役割を持たせ、責任感を育てる。
働き方改革	勤怠管理システムの使用によって、勤務時間、超過勤務など時間管理の意識が高まり、在校時間の減少傾向が続いている。	部活動顧問や学級担任が超過勤務になりやすい。顧問間や副担任との業務の分担を図る。

別紙様式 1 (高)

5 中期的目標

1 全生徒の進路実現を目指した授業の実践 (改善と質の向上)	2 社会的に自立するための実行力の育成
3 地域社会や関係諸機関との連携強化と良好な教育環境の構築	4 業務の改善や全職員の連携など効率的な働き方

6 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
学習指導	① 基礎的・基本的な知識の定着を目指した生徒の学習習慣の確立 ② 主体的で対話的な学びができる学習態度と異なる価値をもつ他者と協働できる学習態度の涵養
授業改善	③ 生徒による授業評価において授業満足度 80%以上 (KPI) となるような授業の工夫
特別活動・部活動	④ 主体性の育成を意識した学校行事や生徒会活動、常任委員会活動の実施 ⑤ キャリアパスポートと学校行事や教育活動との積極的かつ効果的な紐付け ⑥ 健康で安全な生涯を意識させた教育活動や部活動の実施
生徒指導	⑦ 時間遵守・服装指導をきめ細かく行い、基本的生活習慣を確立する ⑧ 校内外において交通安全指導を強化し、命の尊さや交通マナーについて理解させ、生徒の規範意識を高める ⑨ SNSの使用に関するマナーの向上
進路指導	⑩ キャリア教育の充実・ICT活用の推進・学習の振り返りの強化・課題設定による学習の習慣付け ⑪ ゼミや資格指導の体制改善 ⑫ 進路相談体制の改善 ⑬ 企業連携プログラム・高大連携プログラムの推進
地域・関連機関との連携	⑭ 関係諸機関との連携事業の実践 (神栖3 ココシップ事業、「PTA」「同窓会」との連携、高大連携事業等) ⑮ 地域とともに歩む事業の実践 (柳川小、波崎三中、神栖三中との交流、地元企業との連携事業) ⑯ 学校説明会の充実と教育活動の積極的な発信
働き方改革	⑰ 全職員の連携と業務の効率化 ⑱ 「ワーク・ライフ・バランス」の意識の浸透